

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■ 使用評価(デュアル): CASBEE-建築(新築)2016年規. CASBEE-建築(新築)2016年規. 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	29県住戸田門井田地建設工事(日)	階数	地上6F
建設地	埼玉県行田市押上町17番の一部	構造	RC造
用途地域	第一種住居地域・指定なし	平均居住人員	77人
地域区分	5地域	年間使用時間	8,760時間/年(標準値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年1月	評価の実施日	2018年3月14日
敷地面積	1,774 m ²	作成者	株式会社第一建築設計事務所
建築面積	501 m ²	建設日	2018年3月14日
延床面積	2,103 m ²	確認者	株式会社第一建築設計事務所



2-1 建築物の環境効率(BEEラシク&チャー)

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャー)

2-3 大項目の評価(L-チャー)

BEE = 1.0

S:★★★★★ A:★★★★★ B:★★★★★ C:★★★

S:★★★★★ A:★★★★★ B:★★★★★ C:★★★

BEE=1.0

標準計算

30%:★★★★★ 60%:★★★★★ 80%:★★★★★ 100%:★★★★★

①参照値
②建築物の取組み
③上記②以外の
④上記+

0 46 92 138 184 230 276 322 368 414

(kgCO₂/年・m²)
このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的なもの(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安を示したものです

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.3

Q2 サービエ性能

Q2のスコア = 2.5

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.2

Q1 室内環境 (敷地内)
Q2 サービエ性能
Q3 室外環境 (敷地内)

2-4 中項目の評価(L-チャー)

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.3

音環境	2.9
熱環境	3.0
光環境	3.6
空気環境	3.7

Q2 サービエ性能

Q2のスコア = 2.5

機能性	2.0
耐用性	2.9
対応性	2.8

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.2

生物環境	1.0
まちなみ	3.0
地域性	2.5

LR 環境負荷低減性

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.7

1	3.0
2	3.0
3	4.4
4	3.0
5	3.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.4

1	2.2
2	2.4
3	3.0

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.6

1	5.0
2	2.8
3	3.1

3 設計上の配慮事項

3 設計上の配慮事項	その他
<p>品確法劣化等級 等級3とし、躯体材料の耐用年数が長くなるよう努めた。</p>	0
<p>Q1 室内環境</p> <p>F☆☆☆の建築材料を採用し、室内環境に配慮した。</p>	<p>Q2 サービエ性能</p> <p>耐用年数の長い配管を採用して更新必要間隔を長くするように努めた。</p>
<p>LR1 エネルギー</p> <p>BEE=0.98と一次エネルギー消費量の削減に努めた。</p>	<p>Q3 室外環境 (敷地内)</p> <p>敷地内には適切に緑化を施すことで地表面温度上昇を抑制する計画とした。</p>
	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>有害物質を含まない材料を使用するよう努めた。</p>
	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>LCO2排出率を41%に抑え、地球環境へ配慮した。</p>

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ ライフサイクルCO₂とは、建築物の部材生産・建設から運用・改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE 建築(新築)2016年版、CASBEE 住宅(戸建)2016年版、CASBEE 住宅(戸建)2016年版、CASBEE 住宅(戸建)2016年版

欄:数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版、CASBEE-BD_NC_2016(v2-1) ■評価シート:

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
配慮項目				評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質				3.0	0.40	2.9	-	3.3	2.7	
Q1 室内環境				3.0	0.15	3.0	0.50	3.3	2.9	
1 音環境		1.1 室内騒音レベル		3.0	1.00	3.0	0.50	3.3	2.9	
		1.2 遮音		-	-	2.8	0.50	3.0	0.30	
		1 開口部遮音性能		-	-	3.0	0.30	3.0	0.30	
		2 界壁遮音性能		3.0	-	3.0	0.20	2.0	0.20	
		3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		3.0	-	3.0	0.20	3.0	0.20	
		4 界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0	-	3.0	0.20	3.0	0.20	
		1.3 吸音		3.0	-	3.0	-	3.0	-	
2 温熱環境		2.1 室温制御		-	0.35	3.0	1.00	3.0	3.0	
		1 室温		-	-	3.0	1.00	3.0	-	
		2 外皮性能		-	-	3.0	1.00	3.0	-	
		3 ソーラー制御性能		3.0	-	3.0	-	3.0	-	
		2.2 湿度制御		-	-	-	-	-	-	
		2.3 空調方式		-	-	-	-	-	-	
3 光・視環境		3.1 屋光利用		2.2	0.25	3.7	1.00	3.6	3.6	
		1 屋光率		3.0	0.43	3.4	0.50	5.0	0.50	
		2 方位別開口		-	-	5.0	0.30	1.0	0.30	
		3 屋光利用設備		3.0	1.00	3.0	0.20	3.0	0.20	
		3.2 グレージ対策		-	-	4.0	0.50	4.0	0.50	
		1 屋光制御		-	-	4.0	1.00	4.0	1.00	
		3.3 照度		3.0	0.21	-	-	-	-	
		3.4 照明制御		4.0	0.36	-	-	-	-	
4 空気質環境		4.1 発生源対策		3.6	0.25	3.7	1.00	3.7	3.7	
		1 化学汚染物質		4.0	0.60	4.0	0.63	4.0	0.63	
		4.2 換気		4.0	1.00	4.0	1.00	4.0	1.00	
		1 換気量		3.0	0.40	3.3	0.38	3.0	0.38	
		2 自然換気性能		3.0	1.00	3.0	0.33	3.0	0.33	
		3 取り入れ外気への配慮		3.0	-	4.0	0.33	4.0	0.33	
		4.3 運用管理		-	-	3.0	-	3.0	-	
		1 CO ₂ の監視		3.0	-	-	-	-	-	
		2 喫煙の制御		3.0	-	-	-	-	-	
Q2 サービスタ性能				-	0.30	-	-	-	2.5	
1 機能性		1.1 機能性・使いやすさ		2.4	0.40	2.0	1.00	2.0	2.0	
		1 広さ・収納性		3.0	0.40	2.0	0.60	3.0	0.60	
		2 高度情報通信設備対応		3.0	-	3.0	-	3.0	-	
		3 バリアフリー計画		3.0	1.00	2.0	1.00	3.0	1.00	
		1.2 心理性・快適性		1.0	0.30	2.0	0.40	1.0	0.40	
		1 広さ感・景観		3.0	-	3.0	0.50	3.0	0.50	
		2 リフレッシュスペース		3.0	-	3.0	0.50	3.0	0.50	
		3 内装計画		1.0	1.00	1.0	0.50	1.0	0.50	
		1.3 維持管理		3.0	0.30	-	-	-	-	
		1 維持管理に配慮した設計		3.0	0.50	-	-	-	-	
		2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50	-	-	-	-	
2 耐用性・信頼性		2.1 耐震・免震・制震・制振		2.9	0.30	-	-	-	2.9	
		1 耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.50	-	-	-	-	
		2 免震・制震・制振性能		3.0	0.80	-	-	-	-	
		2.2 部品・部材の耐用年数		3.0	0.20	-	-	-	-	
		1 躯体材料の耐用年数		3.3	0.30	-	-	-	-	
		2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		5.0	0.20	-	-	-	-	
		3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		2.0	0.20	-	-	-	-	
		4 空調換気ダクトの更新必要間隔		2.0	0.10	-	-	-	-	
		5 空調・給排水配管の更新必要間隔		3.0	0.10	-	-	-	-	
		6 主要設備機器の更新必要間隔		5.0	0.20	-	-	-	-	
		2.4 信頼性		2.0	0.20	-	-	-	-	
		1 空調・換気設備		2.4	0.20	-	-	-	-	
		2 給排水・衛生設備		1.0	0.20	-	-	-	-	
		3 電気設備		2.0	0.20	-	-	-	-	
		4 機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	-	-	
		5 通信・情報設備		3.0	0.20	-	-	-	-	
		精密機器の地下設置回避、防災無線あり		3.0	0.20	-	-	-	-	

3 対応性・更新性	3.1 空間のゆとり	1 階高のゆとり	-	0.30	2.5	0.50	2.8
		2 空間の形状・自由さ	3.0	-	3.0	0.60	3.0
		3.0	-	3.0	0.40	3.0	0.50
	3.2 荷重のゆとり	3.2	1.00	-	-	-	-
		1 空調配管の更新性	3.0	0.20	-	-	-
		2 給排水管の更新性	4.0	0.20	-	-	-
	3.3 設備の更新性	3 電気配線の更新性	3.0	0.10	-	-	-
		4 通信配線の更新性	3.0	0.10	-	-	-
		5 設備機器の更新性	3.0	0.20	-	-	-
		6 ハットアップスペースの確保	3.0	0.20	-	-	-
Q3 室外環境(敷地内)		-	0.30	-	-	-	2.2
1 生物環境の保全と創出		1.0	0.30	-	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮		3.0	0.40	-	-	-	3.0
3 地域性・フロンティアへの配慮		2.5	0.30	-	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		2.0	0.50	-	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50	-	-	-	-
LR 建築物の環境負荷低減性		-	-	-	-	-	3.3
LR1 エネルギー		-	0.40	-	-	-	3.7
1 建物外皮の熱負荷抑制		3.0	0.20	-	-	-	3.0
2 自然エネルギー利用		3.0	0.10	-	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		4.4	0.50	-	-	-	4.4
4 効率的運用		3.0	0.20	-	-	-	3.0
集合住宅以外の評価		3.0	-	-	-	-	-
4.1 モニタリング		3.0	-	-	-	-	-
4.2 運用管理体制		3.0	-	-	-	-	-
集合住宅の評価		3.0	1.00	-	-	-	-
4.1 モニタリング		3.0	0.50	-	-	-	-
4.2 運用管理体制		3.0	0.50	-	-	-	-
LR2 資源・エネルギー		-	0.30	-	-	-	2.4
1 水資源保護		2.2	0.20	-	-	-	2.2
1.1 節水		1.0	0.40	-	-	-	-
1.2 雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	-	-	-	-
1 雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	-	-
2 雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	-	-
2 非再生性資源の使用量削減		2.4	0.60	-	-	-	2.4
2.1 材料使用量の削減		2.0	0.10	-	-	-	-
2.2 既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.20	-	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		3.0	0.20	-	-	-	-
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		1.0	0.20	-	-	-	-
2.5 持続可能な森林から産出された木材		2.0	0.10	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		3.0	0.20	-	-	-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避		3.0	0.20	-	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.30	-	-	-	-
3.2 フロン・ハロンの回避		3.0	0.70	-	-	-	-
1 消火剤		-	-	-	-	-	-
2 塗剤(断熱材等)		3.0	1.00	-	-	-	-
3 冷媒		-	-	-	-	-	-
LR3 敷地外環境		-	0.30	-	-	-	3.6
1 地球温暖化への配慮		5.0	0.33	-	-	-	5.0
2 地域環境への配慮		2.8	0.33	-	-	-	2.8
2.1 大気汚染防止		3.0	0.25	-	-	-	-
2.2 温熱環境悪化の改善		3.0	0.50	-	-	-	-
2.3 地域インフラへの負荷抑制		2.5	0.25	-	-	-	-
1 雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	-	-
2 汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	-	-
3 交通負荷抑制		2.0	0.25	-	-	-	-
4 廃棄物処理負荷抑制		2.0	0.25	-	-	-	-
3 周辺環境への配慮		3.1	0.33	-	-	-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-	-	-
1 騒音		3.0	0.33	-	-	-	-
2 振動		3.0	0.33	-	-	-	-
3 悪臭		3.0	0.33	-	-	-	-
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制		3.0	0.40	-	-	-	-
1 風害の抑制		3.0	0.70	-	-	-	-
2 砂塵の抑制		3.0	-	-	-	-	-
3 日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	-	-
3.3 光害の抑制		3.7	0.20	-	-	-	-
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		4.0	0.70	-	-	-	-
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	-	-
光害対策がイデオロジックリスト一部適合、広告物照明なし		3.0	0.30	-	-	-	-

CASBEE埼玉県 重点項目シート

■使用評価ソフトウェア

CASBEE埼玉県2016年版

1 建物概要

建物名称	29県住行田門井団地建設工事(B棟)	BEE	1.1	BEEランク	★★★
------	--------------------	-----	-----	--------	-----

2 重点項目の評価

ライフサイクルCO2の削減のスコア	緑の保全・創出のスコア			
5.0	+	2.3	=	7.3

重点項目の各スコアへの合計点				
がんばろう 6.0未満	良い 6.0以上	非常によい 6.8以上	すばらしい 8.0以上	

3 重点項目についての環境配慮概要

(1) ライフサイクルCO2の削減

<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>

LR3 敷地外環境対策

1. 地球温暖化への配慮

スコア **5.0**

LCCO2排出率41%とLCCO2の排出量を抑え、地球温暖化へ配慮した。

(2) 緑の保全・創出		スコア平均	2.3
-------------	--	-------	-----

<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>

Q3 室外環境 (敷地内)

1. 生物環境の保全と創出

スコア **1.0**

Q3 室外環境 (敷地内)

3. 2 敷地内温熱環境の向上

スコア **3.0**

LR3 敷地外環境

2. 2 温熱環境悪化の改善

スコア **3.0**

地表面対策面積率を45%以上とし、敷地外への熱的影響を配慮した。

: 入力欄